

大学生のための自己マネジメントシステムに関する研究

高知工科大学大学 学生会員 ○沖野 和希
高知工科大学大学 正会員 吉良 有可
高知工科大学大学 フェロー会員 草柳 俊二

1. はじめに

近年、完全失業者、フリーターの増加や離職率上昇など、若年層の就職に関する社会問題が多く取り上げられるようになった。また、就労も就学もせず、専門的な訓練も受けていない NEET（Not in Employment, Education or Training）の増加傾向も問題視されている。さらには、2007 年度以降に到来する大学全入により、就職や学業に対する目的意識が低いまま入学する学生が今後増加することも予測される。学生の目的意識が希薄である状況をそのまま放置すると、多くの大学において退学生数が増加する、あるいは卒業後に定職に就かず NEET となるという可能性は否定できない。本研究は、“NEET 予備軍”となりうる学生に就職や学業に対する目的意識を持たせ、自分の将来について深慮することを目的とした「自己マネジメントシステム」の構築を行うことを目的としている。

2. 高知工科大学における実態調査

本研究では高知工科大学工学部社会システム工学科 1～4 年生 257 名を対象に、就職、学業、部活動、趣味等の 8 項目に対する目的意識についてアンケート調査を行った（調査期間 2004 年 11 月、配布数 276 枚、回収率 93%）。アンケート調査の結果、入学直後の緊張も薄れがちとなり、卒業後の進路決定にも時間的猶予がある 2 年生は、就職に対しても学業に対しても目標を持っていないと回答した学生の割合が他学年と比較して最も多かった。また、退学者についての調査も併せて行った結果、2 年時後期における退学者数が最も多いことが判明した。逆に、3 年生は、就職に対しても学業に対しても目標を持っていると回答した学生の割合が最も多かった。その理由として、卒業後の進路決定までに残された時間が少なくなってきたこと、3 年生時に大学側による就職指導（キャリアプラン、インターンシップ）が開始されることを挙げることができる。

つまり、学生が NEET 予備軍となるか否かの分岐点は大学 2 年生であると考えられる。就職や学業に対する意識向上を図るための指導は、3 年生からの開始では遅く、大学 2 年生以前の早期から行う必要がある。

3. 自己マネジメントシステムの提案

(1) 現状の学生指導（学習指導、就職指導）

高知工科大学における学習指導、就職指導に関する講義を図-1 に破線で示す。現状では、1 年生時に自己啓発を、3 年生時に就職指導を主に行う。しかしながら、NEET 予備軍への分岐点となる 2 年生時における学生指導が充実していない。

そこで、現在の学生指導に新たな学生指導ツール（図-1 黒点）を加え、4 年間の体系的な学生指導システムを自己マネジメントシステムとして提案する。新学生指導ツールとは、履修計画書、自己能力発見シートを指す。履修計画書は、単位取得状況を把握し、4 年間で卒業できるように今後の単位取得を学生自ら計画するものである。現在、本学にて実施されているが、学年によっては行われていない場合もあるため、自己マネジメントシステムでは全学年を対象に使用することとする。

(2) 自己能力発見シート

自己マネジメントシステムを構成する重要なツールとして、図-2 から 4 に示す「自己能力発見シート」を

	前 期		夏休み	後 期	
	1Q	2Q		3Q	4Q
学部 1 年	セミナー ^{※1} スタディスキルズ ^{※2} ●履修計画書			セミナー ●履修計画書	●シート①
学部 2 年	●履修計画書	●シート②		●履修計画書	●シート①
学部 3 年	キャリア・プラン1 ^{※3} ●履修計画書	インターンシップ		キャリア・プラン2 ●履修計画書	●シート①
学部 4 年	●履修計画書			●履修計画書	●シート①

※1 各教員が自分の専門分野に関連する講義内容を少人数で行う
※2 生徒から学生への脱皮や基本的能力の習得を目標とした講義
※3 就職活動における準備のための講義

図-1 自己マネジメントシステムの提案

キーワード NEET, 目的意識, 大学全入時代, 自己マネジメント, 自己能力発見シート
連絡先 〒782-8502 高知県土佐山田町宮ノ口 185 高知工科大学 TEL 0887-53-1111

提案する．自己能力発見シートは2つある．1つは、各学年末に1年間の反省と計画に対する自己評価を行い、次年度以降の計画を立てるものである．これは、大学生活を通じて得られる自己の能力を発見あるいは開発すること、また、自分の将来（就職）を見据え、どのような技術を習得するか、どのような学生生活を送るか等、4年間の学生生活を自ら計画することを目的としている．もう1つは、自分に関する価値観、興味、能力等を把握し、就職活動時における自己分析および志望業種・職種の選択等、就職指導に活用することを目的としている．これは、2年生に対してのみ行う．以下、各シートに関する説明を列挙する．

自己能力発見シート①

- 1. 1年間の反省：就職、学業、部活動、趣味等の8項目において、1年間でどのような技術・知識・能力を得たのか自ら再確認あるいは反省を行い、今後どうするべきかを考えさせる（図-2参照）．
- 2. 自己能力開発計画：次年度の大学生活における目標を掲げ、その目標を達成するための大学生活計画を立てる．各学年末に、目標が達成できたか否か自ら評価を行い、次年度以降により充実した大学生活を送るよう再度計画を立てる（図-3参照）．

自己能力発見シート②

- 1. 自分の価値観：「社会人」あるいは「個人」として大切にしたいこと計21項目（昇進、肩書き、給与、家族、健康、趣味等）において、どれが重要であると考えているかを選択し、自分の価値観を把握する．就職活動時における企業分析や自己PRの作成等に活用する．
- 2. 仕事への興味：技術開発、総務、企画等の13種の職種の内、自分が希望する仕事としない仕事を選択し、どの職種に興味を持っているか把握する、または、自分の就職志望分野を選択していく．
- 3. 自分の能力発見：一般的に履歴書に記載されているような長所・特徴を基に、能力・才能に関する事象11項目に対し自分に該当すると思う項目を選択し、自分の隠れた能力・才能を知るきっかけとする（図-4参照）．

4．自己能力発見シートの試行

上述の自己能力発見シートを高知工科大学社会システム工学科の1～3年生126人を対象に、シート記入を依頼し、その有効性についてアンケート調査を行った（調査期間2005年2月、配布数208枚、回収率60％）．その結果、本シート記入により学業あるいは就職について何か考えたかという質問に対し、70％が「考えた」と回答している．また、2章における目的有無実態調査にて、目標を持っていないと回答した学生が最も多い2年生の過半数が、「何か目標を持とうと考えたかどうか」という質問に対し、何か目標を持とうと感じたと回答している．また、自由解答欄には自分を見つめ直し、将来について考えるきっかけになったという意見も多く、自己能力発見シートは有効であったと考えられる．

5．まとめと今後の課題

本研究では、新学生指導システムとして、自己マネジメントシステムを提案する．自己マネジメントシステムに含まれる自己能力発見シートの作成、試行の結果、本シートは有効であると判断できる．自己マネジメントシステムの構築・実施により、“NEET 予備軍”となりうる学生を減少させることができると考えられる．しかし、自己能力発見シートの最適試行時期については検証の必要がある．また、既存の学生指導や新学生指導ツール等が孤立したものとならないように、体系化しなければならないことが今後の課題だといえる．

6．参考文献

1)小島貴子：「がんばる中高年 実践就職塾」メディアファクトリー、2003.3.18
2)小島貴子：「子供を就職させる本 親が読む子供のための就職ガイダンス」メディアファクトリー、2004.5.20
3)玄田有史：「ニートフリーターでもなく失業者でもなく」(株)幻冬舎、2004.7.10

項目	どんな1年間だったか	どんなことを得たか
1. 就職対策	例)先輩たちに就職活動について話を聞く	例)就職活動の大変さを知った
2. 学業	例)TOIEC500点を目標にした	例)510点を取った

図-2 自己能力発見シート①－1年間の反省－
大学2年 ①目標「

②頑張ること	③どんなことを得るのか	評価
例)48単位落とすことなく取得する。	例)すぐにあきらめない、忍耐力	例)48単位全ての取得はなかったが、あきらめることなく、全ての講義に取り組ん

図-3 自己能力発見シート①－自己能力開発計画－

表現力 (プレゼンテーション能力)	☐ 相手が見やすいパワーポイント作りを心掛けている。 ☐ よく身振り手振りを交えて話をする方だ。
チャレンジ精神	☐ 一人で旅行ができる。 ☐ 当たって砕けたことがある。
継続力or忍耐力	☐ 毎日欠かさず5年以上続けていることがある。 ☐ 物事を途中で投げ出したことはない。

図-4 自己能力発見シート②－自分の能力発見－